



# 静岡大学 (静岡県)

## 日本語教育、日本文化一般、自由研究、地域交流の総合プログラム

### ■大学紹介

#### ① 大学の特色及び概要

##### (1) 静岡大学の歴史

静岡大学は、1949年5月31日に旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校の5校を包括して、新制度の静岡大学として発足しました。その後、県立静岡農科大学の移管、キャンパスの統合、学部の改組・拡充を行い、2025年10月現在7つの学部から構成されています。

静岡キャンパス：人文社会科学部、教育学部、理学部、農学部、グローバル共創科学部

浜松キャンパス：情報学部、工学部

##### (2) 学生数等（2025年5月1日現在）

教員数：785名 職員数：348名

学生数：学部生 8,465名

大学院生 1,641名

#### ② 国際交流の実績

##### (1) 大学間交流協定数 65

##### (2) 部局間交流協定数 48

(2025年5月1日現在)

#### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数389人、日研生2人

2024年：留学生数418人、日研生3人

2023年：留学生数410人、日研生3人



大学公式キャラクター「しずっぴー」

#### ④ 地域の特徴

静岡県は本州の中央部で東京と大阪のほぼ中央に位置し、交通がとても便利です。南側には海、北側は富士山など高い山があり、自然に恵まれた住みやすいところです。観光地も多く、温泉などいろいろなところへ旅行に行ったり、名産品を楽しんだりできます。

気候はあたたかく、みかんやメロン、お茶など農業が盛んです。また、静岡県は楽器や輸送機器、薬品や健康産業など幅広い産業も発展しています。街の雰囲気も穏やかで、人々も親切です。



茶畑と富士山



浜松風揚げ祭り

### ■研修・コースの概要

#### ① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

b) 主に日本語能力の向上のための研修

#### ② 研修・コースの特色

日本語授業を中心に、留学生の専門分野に関連した日本文化を学び、将来、日本と留学生の母国との架け橋になるような人材を育成します。

留学期間を10月～3月と4月～8月に分け、10月～3月は語学教育（日本語教育）中心の授業を組み、様々な日本人との交流活動にも参加します。4月～8月は留学生の専門分野を中心に、修了レポート作成、自由研究、地域交流などのプログラムを設定します。

#### ③ 受入定員

9名（大使館推薦6名、大学推薦3名）

静岡キャンパスで受け入れます。

#### ④ 受講希望者の資格、条件等

(1) 外国の大学学部在学し、日本語・日本文化に関する分野を専攻する者

(2) 一定の日本語能力を有する者

（日本語能力試験N2以上）

(3) 2026年9月下旬の指定する日に渡日できる者

#### ⑤ 達成目標

##### (1) 日本語

留学生のレベルに合わせて、中級から上級までのクラスを受講できます。最終目標は上級レベル（日本語5）であり、上級のレベルに達した学生は、全学教育科目の授業を中心に、さらに高度な日本語力を身につけ、自分の専門分野のレポート作成ができるようになります。

##### (2) 日本文化

伝統文化や歴史、文学、教育、現代社会などに関する様々な講義が用意されています。学生は、自らの関心に応じて関連する講義を受講し、専門分野に関する基礎的な知識を身につけます。また、フィールドワークや各種イベントへの参加を通じて、日本文化への理解を深めます。

#### ⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年8月下旬


（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

（帰国は8月下旬の予定）

#### ⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

## ⑧ 研修・年間スケジュール

9月末	・ 渡日 ・ プレイメントテスト オリエンテーション
10月	・ 授業開始
11月	静大祭（大学祭） 
12月末～ 1月初め	<冬休み>
2月初め	試験期間
2月中旬	授業終了
2月中旬 ～3月末	<春休み>
4月初め	・ プレイメントテスト オリエンテーション ・ 授業開始
5月	春のビッグフェスティバル(静岡)
8月初め	試験期間、授業終了
8月下旬	修了式、帰国

国際交流ラウンジでは  
留学生と日本人との  
イベントが学生主体で  
随時行われます。



## ⑨ コースの修了要件

必修科目を含む各学期7科目以上の授業（年間で14科目以上）を履修、単位を修得し、レポートにより専門の研究を修了したと認められる者に、修了証を授与します。なお、修得した単位については、8月以降に成績証明書を発行します。

## ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

### 1) 研修・コース科目の特徴

全てのレベルの日本語授業を開講するとともに、留学生と日本人学生がグループで地域の問題解決を目的としたアクションプランをつくる科目が開講されています。

### 2) 研修・コース開設科目

#### I) 必須科目

留学生の日本語レベルによって必須科目が異なります。

- ・ 日本語レベル3の学生：日本語3 (JLPT N3レベル)
- ・ 日本語レベル4の学生：日本語4 (JLPT N2レベル)
- ・ 日本語レベル5の学生：日本語5 (JLPT N1レベル)

日本語以外の必修科目については、指導教員との相談の上、研修希望分野を学ぶために必要な基礎科目を履修します。

#### ◆日本語科目（日本語・日本文化研修科目）

日本語・日本文化 研修科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語3	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
	日本語総合	30	30	60
日本語4	読解・文法	30	30	60
	聴解・語彙	30	30	60
	作文・話し方	30	30	60
	日本語総合	30	30	60
日本語5	アカデミック リーディング	30	30	60
	アカデミック ライティング	30	30	60
	日本語と文化	30	30	60

## II) 選択科目

レベル5以上の日本語学習を希望する場合は、学部留学生が受講する日本語科目を受講することができます。「日本語Ⅰ～Ⅵ」は、大学における学習・研究や日常生活に役立つ総合的な日本語能力を身に付けます。「日本事情」は、日本文化や異文化理解についての基礎的な知識を養います。

#### ◆日本語科目（留学生科目）

全学教育科目		時間数		
		後期 10～3月	前期 4～8月	計
日本語Ⅰ	レポート作成		30	30
日本語Ⅱ	アカデミック スキルズ		30	30
日本語Ⅲ	情報リテラシー	30		30
日本語Ⅳ	批判的日本人研究	30		30
日本語Ⅴ	就職と日本語		30	30
日本語Ⅵ	企業の分析	30		30
日本事情	異文化理解	30		30

また、様々な専門科目を選択することもできます。それぞれの科目の時間数は30時間です。これら以外にも多くの科目が開講されています。なお、これらの科目を受講する日本語レベルは上級が望ましいです。

#### ◆専門科目（例）

人間学概論、社会学概論、心理学概論  
文化人類学概論、歴史学概論、日本史概説  
日本・アジア言語文化基礎論、日本文学概論  
日本語学概論、書道、専門日本語基礎  
憲法総論・統治機構、法学入門、日本経済史  
国際社会と日本、国際日本学基礎  
その他、日本文化に関連する科目  
（全学教育科目・学部開講専門科目の一部）

### 3) 見学、地域交流等の参加型科目

「日本語と文化」では地域の高校生とディスカッションをしたり、静岡市内各所を訪問し地域の魅力を発見します。正課外も地域交流の機会が多くあります。

### 4) 日本人学生との共修等の機会

「日本事情」では日本人と留学生混合で異文化理解について学習します。そのほか、「国際社会とグローバルリーダー」「多文化共修演習」など日本人学生とともに静岡や世界の問題について学ぶ科目もあります。



### ⑪ 指導体制

#### (1) 指導教員：

留学生1人に対し、国際連携推進機構教員1人が、学習・生活面の指導を行います。

2026年指導教員：案野、徐

#### (2) チューター：

留学生1人に対して1人の静岡大学学生チューターが付き、特に静岡にきたときの出迎えや、各行政手続きなどを手伝います。

#### (3) 協力教職員：

指導教員とは別に、留学生の日本での学習・生活・健康面について、様々な協力体制が整っています。

- ・ 静岡大学国際連携推進機構教員
- ・ 人文社会科学部国際連携推進委員会
- ・ 教育学部国際交流委員会
- ・ 情報学部国際交流委員会
- ・ 静岡大学国際課
- ・ 国際交流ラウンジ

#### (4) 留学生カウンセラー：

静岡大学には留学生のためのカウンセラー（臨床心理士・公認心理師）がいます。心の問題や勉強、生活の相談にのってくれます。英語と日本語の使用が可能です。

## ■ 宿 舎

留学生に宿舎を提供するとともに、様々な国籍の学生が集まる国際交流の場を提供することを目的として、留学生宿舎を用意しています。入居の許可期間は原則として1年間です。なお、室数が限られているので、希望しても必ずしも入居できるとは限りません。

#### ① 静岡国際交流会館

室数：95室

面積(㎡)： 居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居時のみにかかる費用：約13,200円

宿舍料等(月額)：約27,400円



#### ② 浜松国際交流会館1号館

室数：35室

面積(㎡)：12.42㎡

入居時のみにかかる費用：約16,800円

宿舍料等(月額)：約23,000円

#### ③ 浜松国際交流会館2号館

室数：95室

面積(㎡)： 居室7 ㎡、共有43 ㎡

入居時のみにかかる費用：約5,500円

宿舍料等(月額)：約22,700円

#### ④ あけぼの寮

室数：45室

面積(㎡)：15㎡

退去時のみにかかる費用：約21,000円

宿舍料等(月額)：約15,000円

## ■ 修了生へのフォローアップ

#### (1) 海外同窓会

インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシアで同窓会活動を行っています。

#### (2) 修了生の声

静岡市在住のインドネシア出身のエフィ・グスティ・ワフユニです。2001年10月に日研生として、1年間、静岡大学の人文社会科学部で学びました。同期の日研生たちと観光地したりイベントに参加し、様々な体験と発見を通して日本語能力の向上を感じ、ワクワクしました。とても貴重な1年間でした。2005年から静大の修士課程に入り、翌年、静岡県ふじのくに親善大使（現在は静岡県ふじのくに国際交流親善大使）に任命され、両国の架け橋として、静岡県民に母国の文化を紹介しました。その他、通訳や翻訳、インドネシア語の講師、相談員として外国人のサポートをしてきました。現在は年間契約社員として、教育関連の会社に勤務しています。



## ■ 問合せ先

#### <担当部署>

静岡大学学務部国際課国際学生交流係

住所：〒422-8529

静岡県静岡市駿河区大谷836

TEL： +81-54-238-4260（直通）

FAX： +81-54-238-5041

Email： [inbound@adb.shizuoka.ac.jp](mailto:inbound@adb.shizuoka.ac.jp)

#### <ウェブサイト>

静岡大学国際連携推進機構：

<https://www.suoic.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学：

<https://www.shizuoka.ac.jp/>